



月刊 おかじょうき

<http://www.okajiki.com/>

2023

6

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 5月例句会	19
川柳吟行会「ぼ」	26
十和田たてがみ川柳会 4月句会報	30
■連載■	
「深艘心理」 奈良一艘	18
Infomation	32～

無人駅抄

# カンテラ

まきこ

某日、おかしようにき川柳社のメンバーでリモート会議を開きました。テーマは「川柳ステーション2023」についてです。

その中で、たまたまChatGPTの話が出て、「ChatGPTを使った世界で最初のことをやりたいね」という意見が出ました。

さて、どうなるでしょう。

それでは、カンテラに明かりを点しましょう。

## A群

ニコニコと三角中で角隠し 村上あつこ  
耳元で波ささやいて夏になる 柳谷たかお

調理する際によく使われる寸胴鍋。パスタを茹でる時はもちろん、一度にたくさん作るから美味しいカレーやラーメンのスープ、煮込み料理にも」とネットのあるところに書いてありました。州花さん、何を作ってるのかな？

## B群

ホーホケキヨ忘れた春を突つつくな きさらぎ彼句吾  
張り替えの襖が覚悟訊いてくる 熊谷冬鼓  
あれからずっとしかめっ面の虹である 芝岡かんえもん  
サーカスが僕の背骨を降りてくる 三浦蒼鬼  
死んだ子のことを生きてる子が見てる 夏草ふぶき  
肩上げをおろして革命に出かけよう 柳本恵子  
走ったら落としてしまう家族 旅 男  
湯気の立つ教会となるラーメン屋 金瀬達雄

金瀬達雄さん、最近の「ラーメン屋」は「教会」になることがあるのですか。「教会」は「教会堂」のことで、「教会堂」は『きょうかい・どう】【教会堂】キリスト教徒の礼拝儀礼および宗教的会合のための建物。教会。聖堂。

崇りかな夫婦漫才まだ続く

まきこ

いま踏んだ蟻は明日の俺かもな

瀧尻善英

考えを変える言い訳考える

斎藤泰子

この頃は雨に質問ばかりして

ひとり静

死火山が噴火しそうだバックせよ

ひらく

さくらの樹ぼつん付度しないもん

守田啓子

さあきょうも一生涯命眠ろうか

吉田吹喜

寸胴鍋いつも私より元気

吉田州花

吉田州花さん、自分を「寸胴鍋」と比べちゃったりして、まだまだお元気そうですね。「寸胴鍋」って、『ずんどう・なべ【寸胴鍋】寸胴の形をした鍋。口径と深さがほぼ同寸。』（広辞苑第七版）でしょ？「大量の食材を

会堂。』（広辞苑第七版）ですよ。つまり、「ラーメン屋」にキリスト教徒が集まるってこと。しかも、ただの「教会」ではなく「湯気の立つ教会」。「アーメン」と唱えてから「ラーメン」を食べてたりしてね（笑）

## C群

はみ出したところに春があったころ 米山明日歌  
どれほどの微罪を乗せて花筏 まみどり  
復習がいやならバスに乗りなさい 葉 閑女  
焼き芋屋に鈴木主水が並んでる 小野五郎  
尿道口からハシビロコウのがつがっ 奈良一艘

米山明日歌さん、「はみ出したところ」ってどこですか？肉体のどこかな？それとも、心の中のどこかな？どつちにしても「春があった」っていいですね。でも、句の最後が「ころ」だから今はもうそこは「春」じゃない。夏かな？秋かな？

まみどりさん、「花筏」は「微罪」を載せて水面に浮いていたの？重罪だと沈んでしまうものね…。ところで、「花筏」って4種類あるの知ってる？広辞苑に『はな

いかだ【花筏】①花が散って水面に浮かび流れるのを筏に見立てていう語。②紋所の名。花の枝を折りそえた筏の文様。③おしろい下に用いた油性香料の名。④ハナイカダ科（ミズキ科）の落葉低木。山地に自生。高さ2〜3メートル。初夏、葉の上面の中央に淡緑色の小花をつけるのを、花を乗せた筏に見立てる。のち、球形黒色の果実を結ぶ。雌雄異株。若葉は食用。ママコノ。〈「季」春〉と出ています。もちろん、この句の「花筏」は①でしようね。因みに、④の「花筏」も津軽で見ることが出来ます。

葉閑女さん、命令形の川柳って切れがいいですね。句からは何の「復習」か、どんな「バス」か知ることができないので、ある意味漠然とした句ですが捨てられない句です。それは、句にみなぎっている気迫というか強さというか、そんなものが私を惹きつけて、こんなことあるよなと思わせるからだだと思います。違うかな。

小野五郎さん、私は「鈴木主水」を必殺仕事人に登場する、藤田まことが演じた「中村主水」と勘違いしました。恥ずかしい。「鈴木主水」は『すずき・もんど』【鈴木主水】江戸後期の武士。また、主水を主人公とする歌舞伎の通称。鈴木主水と江戸内藤新宿橋本屋の宿場女郎白糸との

情死事件は、幕末期の流行歌謡に歌われて流布。これに鏡山の筋を合わせた「隅田川対高賀紋（すみだがわついのかがもん）」（3世桜田治助作）以後、同材を扱った歌舞伎脚本が作られた。（――〜1800）（『広辞苑第七版』だものね。「主水」さん、「白糸」とこっそり食べる焼き芋を買うのでしょうか。

奈良一艘さん、「ハシビロコウのがつがつ」って何ですか？「ハシビロコウ」は『はしびろこウ』【嘴広鶴】ペリカン目（旧コウノトリ目）ハシビロコウ科の鳥。体長約1.2メートル。嘴（くちばし）が幅広く大きい。アフリカ中部に生息。魚食性で、水辺で長時間動かずに待ち伏せる。（『広辞苑第七版』ですよね。あのじつとしている鳥がどんな食事をするのか見たことがありますね、とんでもなく大きい嘴で食べるんだから凄まじいでしようね。で、一艘さんの「尿道口」からは、その「ハシビロコウ」の「がつがつ」食べる音が流れ出るといことなんです。痛いでしょうね。悶絶するでしょうね。原因は何ですか？何かの祟りじゃないでしょうね。

（了）

おかしきようき川柳社会員雑詠集

# 無人駅

★無人駅5月月間賞

落ちこぼれになって気づくレモン味

田久保亜蘭

きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

ホーホケキヨ忘れた春を突つつくな  
リンリンをぼんと渡されうろたえる  
おぼろ月待たせて搔つ込む牛井  
修羅舐め尽くしひねもす春の海  
枕詞いくつ足しても葉がおちる

先月号のお気に入り  
「再沸騰」押す(さよなら冬)とつぶやいて  
ふんぎりがついたのか?。 Sin

熊谷冬鼓【くまがいとうこ・青森県青森市】

初物はワサビ醤油と決めている  
張り替えの襖が覚悟訊いてくる  
泡立たぬ石鹸 7合目の迂闊  
AIが復唱している つばいこと  
描き終えるまでは柵から出られない

先月号のお気に入り  
どこからが春ガラスで硝子こわす音 米山明日歌  
「ガラスで硝子こわす」の表現に見えない痛みを感じまし  
た。

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

満月が融けて落ちたら召しあがれ  
太陽が零した碧をとかす湖  
地球儀を蒸かして揚げるレシピです  
倭子さんの眠れる森のゆりかもめ  
白鳥ひとり逃げそこなつて春はまだ

先月号のお気に入り  
思い切りガトーショコラな午後にする 辻井洋子  
こんな句が作れたらいいないつも思います。

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

これからは楢円のほうが面白い  
夜汽車の窓に映り込んでる木偶人形  
あれからずつとしかめつ面の虹である  
またしても人間になりそこねたね  
空ぎ缶の俺がカラコンと泣く

先月号のお気に入り  
さてさてとテイクアウトの金太郎 岩根彰子  
さてさてに引き込まれた。さらにテイクアウトと金太郎。  
この句たまりません。

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

長女的発想だなあどの指も  
考えを変え言いい訳考える  
味があるヒビが入っている夫婦  
分離しているけど隣合っている  
簡単じゃない局面へ客が来る

先月号のお気に入り  
おばさんからおばさんへとこるがる桃 野沢直悟  
認知症の美母が私を「ちよつとおばあさん!」と呼びます。  
ホント、ころびます!

坂本清乃【さかもときよの・青森県蓬田村】

力瘤今日のごほうびワンカップ  
頑張るぞ今年も見たよ木瓜の花  
ローズピンのサクラは浮気者  
そうなのよ桜にト書見られたよ  
何も彼もほつぽり出したい時もある

先月号のお気に入り

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

気に登る蟻はもともと哲学者  
山登り誘っておいて放り出す  
一たす一は脱日などしないんだ  
ねという字手本のようにはいかないね  
くしゃみしている白秋の句の余白

先月号のお気に入り  
借物競争僕が書かれた封を引く 柳谷たかお  
きつと、自分で書いたんだろう。さみしがりやかな。

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

二番目の性で静かに生きている  
風に舞うネットシヨップの命の葉  
夢をみるストリップの花の音  
中八上十二止め句跨りですが何か?  
不器用な小指の先はそつと彫る

先月号のお気に入り  
見送ってばかりかざした手も寒い きさらぎ彼句  
「ハートカクテル」の最後の頁には、手のひらに温かい何  
かがあったような...

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

いま踏んだ蟻は明日の俺かもな  
△をフンコロガシは○くする  
ネガティブが全部裏目にしてしまう  
予期しない裏切りだった虹が消え  
敗北というワードなど知りません

先月号のお気に入り  
耳鳴りは鬼のため息かも知れぬ 三浦蒼鬼  
耳鳴りって、鬼のため息だったんですか。格言になりそうです。納得と共感をしてしまいました。

田中 薫【たなかかおる・青森県弘前市】

伸びきった何かをどうすれば くもり  
厚切りトーストにバターシユガーの春  
丸描いてチョン北極星をいじってみる  
全部そう早咲きなんて良くないよ  
クジラの塩をあびてミジンコになりそう

先月号のお気に入り  
ここからは私に塩をふる時間 米山明日歌  
まさしく、今、そんな感じです。

土田雅子【つちだまさこ・青森県青森市】

藍色の産声上げて孫四号  
孫育て我が子育てを詫びながら  
可愛いと思うが母性欠乏症  
余生まだ卒寿の母の朝の草取り  
来年を誓い合うベゴニアの校庭

先月号のお気に入り

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

種啜え戦禍の空を鳩が飛ぶ  
歪む眼を嫌う四角いコンタクト  
死んだ子のことを生きてる子が見てる  
レコードが割れてシヨパンが軋げ出る  
森の樹のひしめき合っていて孤独

先月号のお気に入り  
モアイ像が挟まっていた右奥歯 むさし  
私にも挟まっていましたよ。

旅 男【たびお・青森県五所川原市】

止まったら出るもんだなあ涙  
走ったら落としてしまう家族  
転んだら恥にはしこく瘤拾う  
国民年金生活保護費ケンケンパ  
そつと優しくしてください盗るときは

先月号のお気に入り  
春の顔して隣の猫が来る 柳本恵子  
家の周りで、一匹の猫が春の狂気を叫んでいます。

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

血流がざざ波ほどで良く眠る  
やつれてないシャープになったと言っておく  
スケジュール組んで春を引き延ばす  
もう一つ月があつたら眠れない  
キッチンで福笑いするのは女

先月号のお気に入り  
綿棒で突つつく昨日のよるよる 土田雅子  
優しく突つつきましょ。倒れないようにね。

奈良 一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

尿道口からハシビロコウのがつがつ  
トリユフ味させてNなおぢいさん  
死ぬべきか亡くなるべきかよつてる  
火曜日の薄羽かげろう的ヒゲ根  
老老介護X納豆飯ラララ

先月号のお気に入り  
その穴からは が覗けます Sin  
マチか…

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

星が降る突飛なことをしないよう  
羊とともに歩いてゆけばおとし穴  
自然葬希望する不審者を見た  
ハンカチを見つけたただものではない  
個人差がありますご承知下さい

先月号のお気に入り  
今日もまた眉をしっかりと書いている 村上てる  
「生きる」を感じさせられました。

### ひとり静

試し書ききれいな丸が描けました  
絆創膏しか地球に貼れなくて  
ポコポコとなんでなんですが現れる  
いっぽんの木だからちやんと組み立てる  
この頃は雨に質問ばかりして

号の  
先月お気に入り  
ペンボケの眼鏡が数式解きたがる 熊谷冬鼓  
わたしもなぜか数式を見ると挑戦したくなる。解けない  
くせに・・・

### まきどり

どん底に落ちた足です太目です  
言い訳は明日の夜にしておくれ  
スイーツペロリおすまし顔は得意です  
夕陽背に踊るへつぴり腰のまま  
祟りかな夫婦漫才まだ続く

号の  
先月お気に入り  
春には春のほのかな香り女なら 吉田州花  
癒されます。女であることを忘れてましたわ。

### ひらく

バラライカ弦が一本切れている  
嬉しくてメトロノームが早くなる  
しつとりと紅葉卸しに叱られる  
死火山が噴火しそうだパツクせよ  
異次元の桜吹雪に吹雪かれる

号の  
先月お気に入り  
ネギ刻むまな板からは鼓笛隊 辻井洋子  
鼓笛隊いいですね。料理がおいしくなる。

### まみどり

桜さくら遠かった日のかくれんぼ  
葉桜の中から見つけた明日  
存分に笑って散り際の覚悟  
どれほどの微罪を乗せて花筏  
流れ着くところもきつと鬼探し

号の  
先月お気に入り  
着せ替え人形がひとり介護度は5 奈良一艘  
じわじわと近づいています。

### 三浦蒼鬼

サーカスが僕の背骨を降りてくる  
半熟の卵のまま高齢者  
桜散るまで乾かない汗がある  
孤軍奮闘だんだん影が遠くなる  
おちよくつて測るあなたの骨密度

号の  
先月お気に入り  
鹿の目が濡れて説得されそうだ ひとり静  
涙目で見つめられると弱いんだよなあ。

### 村井規子

終点でなりたい自分待っている  
人生殿堂何かひとつをやりきって  
いちたすいちアインシュタインくじを引く  
柳人の生理現象匂が浮かぶ  
悩むまい私はわたし精一杯

号の  
先月お気に入り

### 宮井いずみ

ジュピターに生まれ変わった蓄音器  
それはそれローストビーフの焼き加減  
山羊の子が生まれる逆走の家に  
美しい毒わたくしとグロリオサ  
午後二時をちらしで包みピンク葬

号の  
先月お気に入り  
モアイ像が挟まっていた右奥歯 むさし  
むさしさんって大きなお顔なんですね。ぜひ一度お目に  
かかりたい。

### 村上あつこ

私だけいつも半音ズレていた  
初めからプライドなんて無かったさ  
ニコニコと三角巾で角隠し  
満月と一緒に帰る一人旅  
100円で買った金魚に癒やされる

号の  
先月お気に入り  
バチカンがサバカンかまだ決めてない 田久保亜蘭  
私なら絶対サバカンです。

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

ポイントをためたとすれば九十才  
春の野辺あと五年ほど生きたくて  
嫌なこと裁ちバサミで切りぎざむ  
冬がくる又一つ老いのシワ  
老いてまだ茶柱に期待もつ

先月号のお気に入り  
欲しいのは三ツ星よりも母の味 瀧尻善英  
母が作ってくれるオムレツの味は今でも忘れられません。  
同感でした。

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

ユーキューへ乗り換えてゆく春だから  
さくらの樹ぼつん付度しないもん  
位置情報乱れ一面芝桜  
フレイルに抵触してる春の脚  
海鳴りにリズムはあるかないかなど

先月号のお気に入り  
柳に風だつたはずだつたはず 吉田州花  
このリフレイン、たまらないです。

葉閑女【ようかんによ・青森県青森市】

お愛想のはずがついつい勇み足  
クモならば許そうハエは赦さない  
復習がいやならバスに乗りなさい  
乱丁の空いっぱいに桐の花  
三日月をおぼろにさせた両想い

先月号のお気に入り  
初氷妻を赦した朝でした 笹田隆志  
訂正妻を↓妻か

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

寸胴鍋いつも私より元気  
人送りサプリメントのから元気  
修正テープ嘘の味方をさせられる  
どこそこにマスクがあつて敵味方  
神田川とか三丁目の夕日とか

先月号のお気に入り  
へんな人いつのまにやら必需品 渡邊こあき  
そんな必需品が何人か。ということは私もへんな奴。

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

立ち泳ぎ春風のしつぽに触れる  
作り目はゆるく春を編みこむ午後  
無呼吸症候群あさり一夜沈めたり  
畳紙で包む晴れた六月の空も  
肩上げをおろして革命に出かけよう

先月号のお気に入り  
音たてて心の骨は折れるもの 吉田州花  
心の骨折はつらいですね。日にち薬で、ゆっくり治しまし  
しょう。

柳谷たかお【やなぎやたかお・青森県外ヶ浜町】

一輪の花を心の真ん中に  
落武者の里です僕のふるさとよ  
大波小波心揺れ続けています  
還暦を過ぎて将棋の香車である  
耳元で波ささやいて夏になる

先月号のお気に入り

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

なくんにも変わらぬうちにもまた春だ  
びゅんびゅんと後ろに飛んでいく景色  
私だけだんだん先に行つちやうの  
いつの間にか命の淵を見つめてる  
さあきようも一生懸命眠ろうか

先月号のお気に入り  
なんといわれましてもそれはそらいる 吉松澄子  
そのとおりです。説得力あります。

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

ひと冬のりんごが残る悔い残る  
花吹雪のエッセンス坂本龍一  
この先へ赤いりんごを並べてる  
三年目の治療へ急ぐ花の道  
アンデルセン開けばいつか春の雨

先月号のお気に入り

### 米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

はみ出したところに春があつたころ  
抱き癖のついてしまった水たまり  
その時は使うつもりは橋ふたつ  
触れられたことが知つてる待ち時間  
たとえばを弁当箱のより方で

先月号のお気に入り  
耳鳴りは鬼のため息かも知れぬ 三浦蒼鬼  
蒼鬼さん。この鬼って蒼鬼さんの鬼の部分のことですか？

### 安藤なみ【あんどうなみ・愛知県瀬戸市】

ストローで潜水艦を釣るなんて  
名作に一礼をする腕時計  
入国のスタンプ薄く世の移り  
了見を連れて山頂から飛ばす  
形容詞抜きでごっそり盗まれる

先月号のお気に入り  
あえいうえおおお春へひとつ飛び まみどり  
あえいうえおおおは、歌う前の発声練習に似ています。練習のときは毎回、リコーから始まるので、合唱団がコーラスに入ってますね、きつと。

### 渡邊こあき【わたなべこあき・青森県青森市】

カラフルな杖が旅路を弾ませる  
新幹線駅弁二つ買って乗る  
1本の北の桜の待つ公園  
桜雨足止めされているホテル  
音量が高くて胸に響かない

先月号のお気に入り  
だんだんと付箋まみれになる四月 斎藤泰子  
七月はステーションに付箋を！

### 石橋芳山【いしばしほうざん・島根県松江市】

なぜそうもふんぞり返るバナナチョコ  
楽しみはフリーサイズの金土日  
マニユアルを守る遠回りな人だ  
三角な昨日をひし形に治す  
ワッフルじゃないと知恵の輪が解けない

先月号のお気に入り  
思い切りガトーショコラな午後にする 辻井洋子  
焼いたチョコレート菓子とからしいが、甘いものが好きだがそんな体験はないし、今後も残念なからないだろう。

### 岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

シエイクするおふくろさんのビブラート  
マゼンタをぼとり駝鳥の人生に  
蟹気楼モンローの腿通り抜け  
フィッシュ&ナッツの盆と正月  
脱衣籠から溢るる恋路ヶ浜

先月号のお気に入り  
目的地までは麻酔を効かせつつ 安藤なみ  
効かせつつの「つつ」が刹那い。

### 金瀬達雄【かなせたつお・富山県高岡市】

湯気の立つ教会となるラーメン屋  
一輪のフラミンゴ的チューリップ  
哲学は屋上のないビルの群れ  
孤独だなあ地球人しかいない街  
地球も歴史もボクも回る回る

先月号のお気に入り  
フトツ桃に触れるニーチェの薬指 野沢省悟  
桃とニーチェの取り合わせが意外だった。

### 小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

焼き芋屋に鈴木主水が並んでる  
どっちみち半熟卵のカラの処理  
涅槃図の隅で西瓜を食べている  
蟹味噌のかき出し方の基礎知識  
突撃の間にチャルメラ吹鳴らす

先月号のお気に入り  
初氷妻を赦した朝でした 笹田隆志  
しみりと情愛を感じさせる作り方。

### むぎし【むぎし・青森県蓬田村】

前立腺を流星群が横切った  
Jアラートの空をカモメの群れが行く  
眼底のどこかで春が泣きじゃくる  
スマイレの空を泳いで行くぞ青鯨よ  
残像のハシビロコウに口紅を

## 深艘心理

教官にするにはチョット卵焼き

田久保亜蘭

(会員雑詠集 無人駅4月号より)

もう五十年も前の高校時代の話だが、2年生の秋のある日、昼休みの体育館の物置で、悪ガキ仲間と食後の一服を楽しんでいた。すると、ガタツと音がしたと思っただん当時の体育担当主任の野村先生がヌツと入ってきた。ああこれでお終いだと観念した。というのも、それまで始末書は6枚、停学・自宅謹慎は2回もあり、あと何か問題を起こせば、私は退学の瀬戸際だったのだ。すると先生は、じいっと私を見つめた後「奈良、お前高い良いタバコ吸ってるなあ、オレにも1本どらよこせ」と私から1本せしめてフウーッと一服した後ギリっとおっきい目を剥いて「これで止めるよ、学校で吸うのは」と言い残し去って行った。後で教員会議を盗み聞きしに行っていた仲間から聞いた話だが、当然私のが話題になり野村先生が必死に私を庇ってくれていたそーだし、出来るだけ一回生からの落ちこぼれを阻止せよとの校長からの指示もあり、その件については何のお咎めも無かった。さすがの私もそれ以後はタバコを吸う事は無かった。勿

論学校内ではだが…。

で、掲句だが、当時も今も弁当には卵焼きは定番。卵焼きこそが正しく母の味というか、なくてはならない愛情そのものである。掲句は教官にするには情がふんわりとある卵焼きだ。と言いつ切っている。ま、確かに教官というものは、ギリッと塩っぱい糖練的怖さと規律を持った人物が必要な事はわかるが、経験上野村先生のような卵焼き派もいなければ教え子も救われないのだ。掲句も卵焼きだからイカンとは言っていないし、そのチョットの恩恵を受けてきた私などにとっては、得難い青春の想い出そのものである。全ての事情を知った上での卵焼き的処置は有り難さを超えて今では私の神であり恩人なのである。問題はその卵焼きを生徒がどう受け止めるかによるのだ。

のうご同輩、少なくとも人と人との結びつきの太さはあったはずですよ。うむ。

## 落ちていた言葉

5月6日(土)午後1時～ アウガ5F小会議室

## ▼出席者(15名)

きさらぎ彼句吾・野沢省悟・守田啓子・渡邊こあき・田中薫・吉田吹喜・葉閑女・原口健二・笹田隆志・夏草ふぶき・熊谷冬鼓・むさし・須藤しんのすけ・小野五郎・土田雅子

## ▼投句者(18名)

芝岡かんえもん・石橋芳山・宮井いずみ・金瀬達雄・岩根彰子・米山明日歌・柳本恵子・吉松澄子・安藤なみ・村上あつこ・旅男・城後朱美・鳴海賢治・斎藤泰子・まみどり・笹田かなえ・まきこ・坂本清乃

おかじょうき川柳社

5月例会

席題 『つべこべ』

青森県青森市 野沢省悟選

【佳作】

言い訳は二十字までと致します  
 もう一度あなたと見たい海があります  
 法要の折詰つべこべ言うな  
 つべこべと言いつばかりイヌフグリ  
 淫乱狂乱錯乱逆乱股関節  
 ゴボゴボと排水溝がケリつける  
 右顧左べんするなよ八重桜  
 つべこべと言わずバナナを待っている  
 つべこべ言うなプーチンだつて仮眠する

熊谷冬鼓  
 須藤しんのすけ  
 渡邊こあき  
 原口健二  
 むさし  
 夏草ふぶき  
 小野五郎  
 守田啓子  
 笹田隆志

ワグネルよ花売り爺にへつらうな

笹田隆志

神様の間違いだもの目を伏せる

夏草ふぶき

講釈はいいから先ずは飲ませてよ

葉 閑女

音域の違う涙にほだされる

きさらぎ彼句吾

つべこべと言えあなたにありがとう

吉田吹喜

糠漬けにつべこべ入れてはなりません

熊谷冬鼓

【秀逸】

降り積もる時の重さが量れない  
 つべこべつて分度器で測れるらしい  
 太宰が生きているとか風が燃えるとか

むさし  
 吉田吹喜  
 むさし

【特選】  
 さくららはら後の祭りの口を拭く  
 † さくらは勝手に咲いて勝手に散る。人はそれぞれその桜に踊らされる。口を拭いているのは葉桜。

むさし  
 小野五郎  
 野沢省悟  
 吉田吹喜  
 むさし  
 熊谷冬鼓

席題 『つべこべ』

青森県弘前市 きさらぎ彼句吾選

【佳作】

講釈はいいから先ずは飲ませてよ  
 あれも嫌これも嫌だと兜虫  
 戴冠式だぞつべこべ言うな能登半島  
 ここはどこやみがしぬとこわたしはまいご  
 晴れた日に大声で邪心を飛ばす  
 つべこべ言うなプーチンだつて仮眠する  
 つべこべと言わずバナナを待っている  
 もう一度あなたと見たい海があります  
 ゴボゴボと排水溝がケリつける

葉 閑女  
 渡邊こあき  
 守田啓子  
 須藤しんのすけ  
 田中 薫  
 笹田隆志  
 守田啓子  
 須藤しんのすけ  
 夏草ふぶき

淫乱狂乱錯乱逆乱股関節

むさし

つべこべでも何でも食べてやる

小野五郎

つべこべつべこべと蟹ゆであがる

野沢省悟

つべこべつて分度器で測れるらしい

吉田吹喜

降り積もる時の重さが量れない

むさし

言い訳は二十字までと致します

熊谷冬鼓

【秀逸】

支点力点ふたり微妙にずれている  
 太宰が生きているとか風が燃えるとか  
 神様の間違いだもの目を伏せる

熊谷冬鼓  
 むさし  
 夏草ふぶき

【特選】

だからもう子子わいてしまったわ

野沢省悟

† 子子湧くほど…そんな奴捨てなさい。

### 宿題 『触れる』

青森県弘前市 田中 薫選

#### 【佳作】

ハイタッチここから先はひとりです  
 くちびるにさわるな眉がつり上がる  
 月にハグされたたく影のままにいる  
 柔らかいくちびる傷口に触れて  
 夜桜に触れて火傷をしよう  
 耳鳴りは天からのカテーテル  
 あのかちづけもニセアカシアの咲いた頃  
 触れないでそこは私のブラックホール  
 春キャベツすかすか他愛ない迷路  
 ナメクジが触れた指から石になる  
 シロクマの髭をしゃぶっている女  
 指のはらで部分日食に触れてみる  
 初めての間接キスは二日前  
 落ちていた呪文に躓いたらしい

まきこ  
 笹田隆志  
 坂本清乃  
 須藤しんのすけ  
 坂本清乃  
 旅 男  
 きさらぎ彼句吾  
 村上あつこ  
 土田雅子  
 城後朱美  
 むさし  
 柳本恵子  
 須藤しんのすけ  
 吉田吹喜

アーカイブ先人の吐息に触れてから  
 出した手をすぐ引つ込めるそんな国  
 桃に触れられ液状化してしまふ  
 テレパシー強すぎました消しちやつた  
 分かり合いたいなと思う朝の雨  
 オバサンも初夏のうららに触れてみる

#### 【五客】

どの指で触れても脈の無い科白  
 淋しさが乳房にツンと触れてくる  
 話しだす積乱雲に触れぬよう  
 葉桜は葉桜なりの躰し方  
 おっぱいもお尻もあるぞ一升瓶

#### 【人位】

始まりは桜蕊ふる観覧車

#### 【地位】

淋しくて鏡の中に手を伸ばす

#### 【天位】

触れ合うこと うぐいす色になること

♪なんかサラッと心にへばりつく句で  
した。

柳本恵子  
 吉田吹喜  
 きさらぎ彼句吾  
 まみどり  
 守田啓子  
 斎藤泰子  
 きさらぎ彼句吾  
 米山明日歌  
 米山明日歌  
 熊谷冬鼓  
 野沢省悟  
 熊谷冬鼓  
 夏草ふぶき  
 守田啓子

### 宿題 『音』

青森県弘前市 須藤しんのすけ選

#### 【佳作】

憲法の鐘が鳴ったら朝めしだ  
 紙袋の中で始まるクーデター  
 四六時中悲鳴上げてる股関節  
 花冷えの背骨の声を聴いている  
 花束を投げて危ない音を聞く  
 カラカラと骨が笑っていましてね  
 ブロンスの裸像はそつと咳をする  
 大黒柱時々軋む音がする  
 音程は違ってるけど 春だもの  
 母さんの居ないところで音がする  
 水漏れの音がしている懇親会  
 風の音責めてるように悔いでるように  
 私の音でがんじがらめにしてあげる  
 画鋲刺す時の音なら気付いてる

笹田隆志  
 小野五郎  
 村上あつこ  
 熊谷冬鼓  
 安藤なみ  
 吉田吹喜  
 野沢省悟  
 坂本清乃  
 斎藤泰子  
 城後朱美  
 渡邊こあき  
 斎藤泰子  
 きさらぎ彼句吾  
 斎藤泰子

着信音が暗い赤紙来たらしい  
 一日の音階決める午前五時  
 鍵穴から音をたてずに蛇が来る  
 オムレットに春の音符を閉じこめる  
 散骨か吹雪の音がわからない  
 ピピッとしか言ってくれない冷蔵庫  
 【五客】  
 取敢えず謝ればって言うノイズ  
 松ぼつくりコロコロ風が哭いている  
 納骨の朝も元氣な鳩時計  
 真四角な箱にしまつてある本音  
 放課後の第二音楽室は雨  
 【人位】  
 幸せの音ご飯一合炊けました  
 【地位】  
 住み慣れた部屋 補聴器から涙  
 【天位】  
 半濁音の貌でジョークを三つ言つ

小野五郎  
 土田雅子  
 夏草ふぶき  
 米山明日歌  
 野沢省悟  
 熊谷冬鼓  
 熊谷冬鼓  
 熊谷冬鼓  
 笹田隆志  
 葉 閑女  
 まきこ  
 吉松澄子  
 柳本恵子  
 田中 薫  
 まきこ

♪ 20分間のスタンディングオベーション、鳴り止まない拍手が聞こえます。

# 宿題 『自由詠』

青森県逢田村 むさし選

## 【佳作】

塹壕を掘り続けてる団子虫  
 頭頂部ついに五月の風が吹く  
 淋しい日は動物園で吼える父  
 死んだふりしよう叶わぬ恋ならば  
 とろけるチーズの訳ありな言い訳  
 登れない山がきれいに見え過ぎる  
 待つ事が甘美であれと言うバス停  
 ヒビはあるけど割れてはいない僕  
 何だ何だとバーチャル少女やってくる  
 ダイヤ婚ですって我慢したのです  
 反撃は朝ご飯から始まった  
 失業し手の沈黙を切り刻む  
 漏れそうですハテナマークが受話器から  
 爪を塗る山の彼方を見るために

水平線ポケットチーフにして戦  
 青春期終わり棘が生えてくる  
 トマト増量負けるなウクライナ  
 空が泣いた星が笑ったグーを出す  
 昭和から桃の匂いが 帰ろうか  
 光りすぎる破る約束だった月

## 【五客】

鯛焼きの性感帯をまずかじる  
 桜散る毒なんかなかったように  
 音読を勧められてるヒラメ筋  
 湿布貼る返信メール疼きだす  
 象のいる地平は少し母らしい

【人位】  
 下半身から生成AIの匂い

【地位】  
 湿布貼らなきゃ桜並木でいられない

【天位】  
 ことば課に届ける落ちていた言葉  
 『ことば課長って、今、誰がやってるんだろ…』

岩根 彰子  
 まきこ  
 小野 五郎  
 まきこ  
 田中 薫  
 きさらぎ彼句吾

野沢 省悟  
 柳本 恵子  
 熊谷 冬鼓  
 渡邊 こあき  
 金瀬 達雄

小野 五郎  
 きさらぎ彼句吾

吉松 澄子

おかじょうき川柳社：誌上句会

# 0番線

- OKAJOKI ZERO LINE -

課題と選者 (2句詠・共選)

# 題：『数』

選者

四ツ屋いずみ (北海道)

奈良一艘 (青森県)

## 7/31 〆切

## 投句方法

※誠に申し訳ありませんが、郵送・FAXでの応募は受け付けておりません。

### 【ウェブサイトからの応募】

<http://okajoki.com/toku/0line.html> へアクセスし、作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。



### 【メールで直接送信する場合】

メール本文内に「作品(2句まで)」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号(ふりがな)」「電話番号」を明記し、件名に「0番線」として、守田啓子宛にメール送信してください。<送信先アドレス：[moriko@okajoki.com](mailto:moriko@okajoki.com)>

投句料 (※おかじょうき川柳社会員は無料です。)

1,000円 (発表誌呈) \*発表誌の送付をもって、投句料受領したものとさせていただきます。

◆振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

## 賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。

# 川柳吟行会「ぽ」課題『登る』

朝ドラ「らんまん」で賑わつちゆう高知からです。青森は憧れの地で南国高知とはひと味違った北の感性に憧れちよりますき。

川登る鮭だつたことありますか 吉田州花

「母川回帰」の懐かしさに太古からの素朴な力強い声を聴いたような気がしました。

木に登る蟻はもともと哲学者 城後朱美

着眼がおもしろいです。ユニークな比喻が効いています。

マンサクやギシギシ春の股関節 滋野さち

「マンサク」も「ギシギシ」も「春の股関節」だつたんですね。脱帽です。(善江)

【1点】特×4・佳×3

川登る鮭だつたことありますか 吉田州花

【吉見恵子】鮭を擬人化して、究極な頑張りを果たしたことがあるかとストレートに問うている。【柳本恵子】川登る鮭の発想が他にはない独自性がありました。【冬鼓】命がけの鮭の遡上はまさに登る。鮭を越える生き方をしているのか。作者も自問自答しているのだろう。【こあき】一度あつたような…。今は川の流れに身をまかせている雑魚です。【啓子】こんな風に訊かれたらありえないのにちよつと考えてしまう。うまい。【達雄】ずつと今も川登る鮭です。【ふぶき】川登る鮭を実際に見たことがあつたので色んな想像ができた句でした。

【7点】特×3・佳×1

ソングンシとか入れる夕日の頬袋 守田啓子

れも人生。「とつくに午後で」が面白い。【まあこ】私なんかとつくに夕方で未だ二合目です。【さち】ビバーク覚悟で生きるしかないこともあります。

家庭の事情で山登りしています 小野五郎

【朱美】母の介護が時に嫌になります。介護を楽しく元気にやるためにハイキングをしています。【ふぶき】どんな事情だとしても、それで山登りをするという発想が面白かったです。【いずみ】配偶者が山登りをしてくれれば、一日留守だし、路の藁や蕨のお土産も。

木に登る蟻はもともと哲学者 城後朱美

【善江】ユニークな発想です。哲学者がgodです。【州花】蟻は哲学者なのですね。【隆志】ソクラテスは木登りが上手でしたか。

【4点】佳×4

マンサクやギシギシ春の股関節 滋野さち

【与生】「登る」の題を「ギシギシ春の股関節」で消化したのがいい。【善江】「春の股関節」が面白いと思いました。

【7点】特×1・佳×5

羽化登仙 やましいことがございます 笹田かなえ

【いずみ】尊厳死はわたしもそうありたいと思つています。夕日の頬袋に預ければいいのですね。【さち】発想が面白い。(頬袋)が適切かどうか少し疑問。(とか入れる)を再考してすつきりさせたらすごくよくなると思う。【隆志】ヒトはみないつか死をむかえる。でも夕日の頬袋に入れられて尊厳死を迎えたくはありません。【彰子】夕日の頬袋に反転。目標にしたい意味の飛躍。

【与生】「羽化登仙」とはまた大きな言葉を持つてきたものだ。以外の言葉がひらがなでしかも俗物的なのでいつ

そう神々しく感じる。【まあこ】何だかこちらまで胡麻化されそう。【州花】仙人になるにはやましいことも必要でしょうか。【冬鼓】上5と下句の俗っぽさ、人間臭さの対比が愉快。【五郎】一字あけをびたりと決めた。【しんのすけ】酔いが醒めないことを願わずにはいられません。

【4点】特×1・佳×2

人生はとつくに午後で三合目 村井規子

【啓子】焦らない焦らない。頂上まで行けなくつてもそ

【こあき】今の一番の悩みは股関節。せめてキシキシに。  
【いずみ】春の股関節の措辞がいい。今年はマンサクも  
ギンギンも早い。

【3点】特×1・佳×1  
アンパンの顔が落ちてる登山口 月波与生

【しんのすけ】濡れたり欠けたりして取り替えた顔は、こ  
んな所に落ちていたんですね。思わず吹き出してしま  
いました。【朱美】アンパンには勝てない。釣られて登ります。

化けそうな老人たちが登壇す 小野善江

【五郎】俗世間に批判的視点を持ち込んだ。【規子】国会  
本会議が目につかぶ一句まさに同感。

五合目で頓挫している鯉のぼり 渡邊こあき

【ふぶき】勢いのあるイメージの鯉のぼりですが頂上まで  
行けない。見た目と違って中は吹き抜けだから自力が無い  
んだと思うと、ちょっと滑稽で切ないところがいいと思  
いました。【文音】鯉のぼりで家族の登山を思った。あ  
の時は娘5才、八甲田山の5合目あたりでオンブしたっけ。

テナガザルに試されるのは面白い。しかもこの「登って  
こい」は叱咤激励。

ずっとずっと相棒だった登山靴 熊谷冬鼓

【文音】ずっとずっとのオノマトベが素直でいい。登山  
への執着、靴への愛着が切ない。

はらぺこあおむし夏へ駆け登る 宮井いずみ

【かなえ】「駆け登る」に踏ん張って高い所へ進むと言  
う意味を持たせ、そこに「はらぺこあおむし」。みんな必  
死に生きている。

【2点】佳×2  
テトラポットへ真っ白な訃報ニュース 岩根彰子

【文音】海に出て四直体の頂点を一瞬に越えてきた波を思  
い出した。テトラポットをのみこんで砕けた12年前の訃報  
ニュースが蘇る。【隆志】大島で倭子さんを思い出したら訃報。

尺取り虫の雨の坂風の坂 吉見恵子

【冬鼓】どんな困難にも前に前に進む尺取り虫は作者。【し

だんご虫高み目指したこともある 熊谷冬鼓

【州花】高みを目指した記憶はとても大事です。【柳本恵  
子】一寸の虫にある魂を感じました

東京はみんなのぼりで終点だった 滋野さち

【彰子】題にもたれない発想が多く今回、選を楽しく迷  
いました。軽みでダントツ。【柳本恵子】電車ものぼり  
くだりですね。上野駅着ですね。

【2点】特×1  
二階から大涅槃図へヒラメ筋 岩根彰子

【まあこ】山でも樹でもなく一気に大涅槃図へ！しかも  
二階から！何とヒラメ筋で！元気をいただきました。

下り坂登る景気動向指数 月波与生

【達雄】「下り坂登る」の矛盾で某国の今と未来を穿つ。「景  
気動向指数」で具現化するどころかオオスじゃないですか！

登って来いとテナガザルの哄笑 金瀬達雄

【規子】人間はもつとも自惚れの強い猿。そんな人間が

んのすけ】応援歌の様で元気を貰いました。頑張ります！

UFOのように動いてみたい月 夏草ふぶき

【彰子】願望としての比喩が面白い。対比も良い。【達雄】  
「月が動いた」と言う暇はあるのか？

【1点】佳×1  
揚げ雲雀 天地四方の探しもの 吉見恵子

桜へと今もつくづく男坂 吉田州花

頬撫ぜる風と指切りできる丘 夏草ふぶき

とにかくに見誤ったの登り口 小野善江

登山口捜しあぐねて日が暮れる 高木まあこ

折れやすいところ木登り下手な猿 渡邊こあき

ト音記号を登るビートルズにはとどかない 宮井いずみ

ゆらゆらと煙の中に母の顔 柳本恵子

壇上の身振り手振りは青かった 金瀬達雄

山櫻桃梅見上げるくすり指の月 須藤しんのすけ

七合目だが引き返す花曇り 笹田かなえ

# 十和田たてがみ川柳会四月句会

○日時 4月15日(土) 午前9時45分から

○会場 十和田労働福祉会館

○出席者 木村奈生美・久保あざみ・佐藤まさあき・

瀧尻善英・福田芳記・村上昌子・高田幸柳

○投句者 磯島雅男・城後朱美

■席題『扉』 村上 昌子 選

【平抜き】

新刊の扉を開ける日の至福

信頼が心の扉 鍵を解く

自動ドア便利で不便知りました

勘当をした子へドアは開けて待つ

待ってますピンクのドアは開けたまま

扉絵に魅せられ読んでみたくなる

【秀逸】

人間を両開きする春の風

開けて待ち待っても拉致が来ぬ扉

【特選】

自己主張吐いた扉の軽い事

村上 昌子 選

佐藤まさあき

佐藤まさあき

久保あざみ

瀧尻 善英

高田 幸柳

福田 芳記

木村奈生美

瀧尻 善英

瀧尻 善英

木村奈生美

■席題『扉』

瀧尻 善英 選

【平抜き】

許しあい胸の扉はオープンで

春風が季節の扉ノックする

ドアノブに飛びつくタマの得意顔

新刊の扉を開ける日の至福

気に入りの口絵見てからめくる本

自動ドア便利で不便知りました

信頼が心の扉 鍵を解く

【秀逸】

今も尚扉を閉めた人が居る

扉開け新郎新婦踏む一步

【特選】

扉絵に魅せられ読んでみたくなる

佐藤まさあき

久保あざみ

久保あざみ

佐藤まさあき

福田 芳記

福田 芳記

木村奈生美

城後 朱美

久保あざみ

久保あざみ

福田 芳記

村上 昌子

■宿題『とんとん』

佐藤まさあき 選

【平抜き】

とんとんと机を叩く黙秘権

母の肩とんとん叩き誉められた

国予算収支とんとんほど遠い

面白いトントン拍子ならぬ旅

佐藤まさあき 選

城後 朱美

久保あざみ

久保あざみ

福田 芳記

村上 昌子

【秀逸】

先ずビールそれからおもむろメニュー見る

とりあえず寝ますリセット今日の鬱

【特選】

とりあえずイメージ書いて句を寝かす

佐藤まさあき

佐藤まさあき

村上 昌子

村上 昌子

磯島 雅男

■宿題『どっしり』

互 選

①どっしりと構えた眉に有る強気

②神饌の五穀がドデン 祭り笛

③かかあ天下尻に敷かれてあゝ重い

③母ちゃんがどっしり座る耕運機

③安眠へ抱いていたのは象の尻

④どっしりと母の笑顔に無い不安

木村奈生美

瀧尻 善英

瀧尻 善英

福田 芳記

佐藤まさあき

高田 幸柳

村上 昌子

■宿題『とりあえず』

【平抜き】

先の事煩うなかれ先ず食い気

とりあえず瘡蓋だけは隠します

とりあえず知らぬふりして聞いてみる

とりあえず漬物出して爛を付け

とりあえず一服の後考える

とりあえず母をしつかり抱きしめる

雲行きが怪しくなれば秘書を切る

前置きを終えて切り出す金のこと

手土産をまずは謝罪へ持参する

福田 芳記 選

村上 昌子

村上 昌子

高田 幸柳

高田 幸柳

佐藤まさあき

高田 幸柳

城後 朱美

瀧尻 善英

佐藤まさあき

瀧尻 善英

◆十和田たてがみ川柳会6月句会案内◆

【時】6月17日(土) 午前10時から 【所】十和田労働

福祉会館 【宿題】(各題三句詠)『にんまり』久保あざ

み選/『憎たらしい』齊藤蛙井選 【互選】(二句詠『賑

やか』当日出席者のみ(句せんの裏に柳号記入) 【席題】

一題(三句詠・共選) / 選者は、瀧尻善英ほか出席者

から一名【投句先】〒034-0212 十和田市米田字校平

72 高田幸柳宛

□ **2023.10.01 第41回東北川柳連盟 弘前大会**

【日時】2023年10月1日(日)午前9時受付・席題発表10時・出句締切11時・大会開会12時半【会場】RAGLEY(ラグリー)弘前市大字野田1丁目4-1  
☎0172-36-2277(弘前駅徒歩30分)【会費】3,000円(昼食・発表誌)※懇親会はありません【宿題・選者】(2句詠・共選・投句拝辞)『モンスター』長谷川酔月(秋田県)・守田啓子(三沢市)／『銀』片倉卯月(山形県)・瀧尻善英(八戸市)／『ハッピー』駒木香苑(福島県)・野沢省悟(青森市)／『眼』雫石隆子(宮城県)・千島鉄男(弘前市)／『ストーリー』熊谷岳朗(岩手県)・滋野さち(青森市)【席題・選者】(2句詠・3人選)『印象吟』(当日参加者に依頼)【賞】各特選賞 東北川柳連盟大賞(席題の特選から二次選者・熊谷岳朗)／各県川柳連盟大賞(宿題の各県川柳連盟理事長、会長の特選)／青森県川柳連盟大賞(宿題の県人選者の特選から二次選者・高瀬霜石)【理事会・前夜祭】RAGLEY(ラグリー)★理事会9月30日(土)午後3:30より★前夜祭9月30日(土)午後5:00より 会費¥5,000★宿泊9月30日(土)一泊朝食付きシングル¥6,000弘前東栄ホテル(弘前市土手町166 ☎0172-33-8111)※注意!ホテルは大会場(理事会・前夜祭)と違います★前夜祭の申込先 青森県川柳連盟事務局 濱山哲也 ☎038-3288 つがる市木造出来島33 ☎080-5574-9297(宿泊は極力、各自でお願いします。10/1はアップルマラソンがあるのでお早めに)【主催】東北川柳連盟・青森県川柳連盟【後援】弘前市・東奥日報文化財団・陸奥新報社・FMアップルウェーブ

句会、大会、誌上句会などの情報をお寄せください。

info@okajoki.com

※メール本文にベタ打ちでも構いません。

テキストデータで送っていただけると助かります。

□ **2023.06.30 第12回東北川柳文学大賞募集**

【応募資格】東北6県の在住者(災害による避難先は可)【応募用紙】専用の応募用紙(コピー可)。またはA4版の原稿用紙に縦書き。その際冒頭にタイトル・未発表作品10句・郵便番号と住所・柳号(氏名)・電話・所属結社の順で明記。\*用紙必要な方は事務局へ【応募料】1篇¥1,000(複数応募可)なお、応募時に大賞受賞者句集の購入予約(句集予約と添書きし、1冊につき¥1,200同封)をいただくと送料無料でします。【締切】2023年6月30日(消印有効)【選者】江畑哲男(千葉)・木本朱夏(和歌山)・長谷川酔月(秋田)・駒木香苑(福島)・片倉卯月(山形)・雫石隆子(宮城)・高瀬霜石(青森)・熊谷岳朗(岩手)【賞】大賞～賞状、記念品、副賞として川柳句集の無料発行権と100冊を授与、【表彰】10月1日(日)第41回東北川柳連盟弘前大会 大会席上予定【応募先】〒027-0028 岩手県宮古市神林5-25 東北川柳連盟 東北川柳文学大賞係【連絡先】東北川柳連盟事務局 伊藤豊志 Tel 0193-62-1137【主催】東北川柳連盟

□ **2023.07.23 第74回一朶の雲 まつやま川柳大会**

【日時】令和5年7月23日(日)午前10時開会(受付9時開始)【場所】愛媛県男女共同参画センター 多目的ホール(松山市山越町450番地 Tel 089-926-1633)【宿題・選者】《事前投句》(各題2句・未発表の作品に限る)『すんなり』田中なお(伊予)・藤井智史(岡山)共選／『リセット』仙波草苑(松山)・小野善江(高知)共選\*事前投句締切は令和5年6月30日(金)(消印有効)／応募句の他に自選句1句と参加費同封し、〒799-3121 愛媛県伊予市稲荷537-17 山内ともこ方「第74回一朶の雲 松山川柳大会」係あて《当日投句》(各題2句・未発表の作品に限る・投句用紙は受付で)『転ぶ』湊圭伍(松山)・永見心咲(岡山)共選／『器』村山浩吉(松山)・真島久美子(佐賀)共選／二次選者 野口三代子・松木慎吾・柳田かおる及び一次選者全員による点数方式【参加費】2,000円(発表誌贈呈及び弁当代を含む)(切手不可、郵便小為替には何も記入しない)事前投句のみは1,000円(8月下旬発送予定の発表誌をもって領収書に替えます)【贈賞】知事賞ほか副賞(愛媛県特産品等)及び秀句賞(各題3句)【主催】川柳まつやま吟社【後援】愛媛県 松山市 松山市文化協会【問合せ先】川柳まつやま吟社事務局長 大前尚道 Tel 089-952-6774

■会費拝受【4月受付分】※太字は新会員

大内せつ子・吉松澄子(以上愛媛県) / 岩崎雪洲(黒石市) / 瀧尻善英(八戸市) / 木村美映(青森市)

■おかげょうき川柳社会員募集中！

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかげょうき川柳社

→会費：6,000円(1年分)

おかげょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

(〒039-3502 青森市久栗坂字浜田87-2)

終着駅 Sin

◆来月開催の「川柳ステーション2023」の内容がようやく決まった(汗)もう準備期間もなく外部の誰かに何かをお願いする時間がない状態なので、企画会議でも句会の拡張版的な大会に収まろうとしていたところ、先月号のこの「終着駅」に書いたChatGPTの話題になった。先月号でも書いたとおり、そもそもの日本語のデータ量が少ないことや、世界一難しい言語とされる日本語が持つ独特な機微のようなものが反映しづらいことも要因とあって、様々な質問をしても誤答が多いのが現状である◆そんな雑談の中、むさしさんが「そのChatGPTって、選、出来ねんだが？」と聞いてきたので、適当に句会結果から10句ほどコピペして、選ばせてみた。すると、基準は不明だが、好きな順番通りに答えが返ってきたのである。私の予想として

は、言うてもAIなので、事実と異なるような表現とか、意味のわからないような詩的な表現より、わかりやすいサラリーマン川柳のような作品が上位に来ると思っていたが、思ったほどそうでもないような結果に少し驚いた◆俳句や短歌の世界には無い文化かもしれないが、川柳の句会・大会では、選者に合わせて句を仕立てることも多いと聞く。私の選に、やたら下ネタの投句が多いのがそれを如実に語っている証拠だろう(笑)もしかしたらChatGPTにも、この単語を使えば、上位に選ばれやすいという癖があるかもしれないし、わかりやすい報告句のような作品が上位になる傾向があるかもしれない。そういうことなんかも含めて、来月の川柳ステーション2023の「ChatGPT選」は、遊ぶような感覚で楽しんで欲しいと思っている◆Sin

おかげょうき川柳社 作品募集案内

□ 2023.06.14 ㄨ 「川柳吟行会 ぼ」6月句会

【投句締切】6月14日(第2水曜日)【題・投句数】『動く』2句【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 \*それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかげょうきに掲載。メール交換できる方ならおかげょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。

□ 2023.06.20 おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句(8月号分)

【締切】6月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】8/10発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2023.06.24 川柳吟行会ぼ・カモミール句会合同吟行

【日時】6月24日(土)13時~16時30分【吟行・句会場所】八戸市『更上閣(こうじょうかく)』(八戸市本徒士町5-4 ☎0178-22-2260) / (JR八戸線八戸駅より徒歩10分) / (JR八戸駅より市内中心街行きバスに乗車 二十三日町下車徒歩5分)【参加費】500円(施設利用料込) \*お酒以外の飲食持ち込み可【参加申込・問合せ】6/10迄熊谷冬鼓へ(toko@okajoki.com Fax017-752-3759) \*会員以外の方も参加可 \*更上閣は八戸市の財閥の邸宅。平成15年に国の有形化財に登録。

□ 2023.07.01 川柳ステーション2023

【日時】2023.7.1(土)13時~(受付開始 12:30)【場所】リッチモンドホテル青森5F「ブリリアンテラス」(TEL 017-732-7655 青森市長島1丁目6-6)【会費】5,000円(句会・懇親会費込)【特別選】『AIに愛はあるんか!』事前投句課題「愛」1句 ChatGPT(AI)選 / 事前投句:6/20必着 / 投句先:toko@okajoki.com 又はFAX 017-752-3759(熊谷冬鼓)【当日発表】関門吟「」1句むさし謝選 / 席題「」2句 2題二人共選(選者は当日発表)



# 川柳ステーション 2023



そこに  
愛はあるんか？

## 特別選 ～ AI に愛はあるんか？～

題 「 愛 」 ChatGPT 選 (AI 在住)

1 句詠 / 6 月 20 日 (火) 締切 / 欠席投句拝辞

投句先: [toko@okajoki.com](mailto:toko@okajoki.com) またはこちらから →

(FAX.017-752-3759)



## 当日発表

関門吟 題 「 (当日発表) 」 1 句詠 むさし謝選

席題① 題 「 (当日発表) 」 2 句詠 2 人共選 (当日発表)

席題② 題 「 (当日発表) 」 2 句詠 2 人共選 (当日発表)

# 2023.7.1 (土) 13時開会

(受付開始 12:30)

場所: リッチモンドホテル青森5F「ブリリアンテラス」

会費: 5,000 円 (句会・懇親会費込)

主催: おかじょうき川柳社

2023年6月10日発行 (年12回発行) 第27巻6号通巻351号  
● 発行人 / むさし ● 編集 / Sin ● 発行 / おかじょうき川柳社 ● 表紙題字 / 金子榮風  
青森県東津軽郡外ヶ浜町字蟹田中師宮本2の3 ● E-Mail: info@okajoki.com